

『一心千里』

永田隆一

走って見れば、
見えてくる



第106回

小料理屋で、その5。
「女将さん、俺の会社
素晴らしい会社です。先
輩の何人かはすごいビジ
ネスマンで、勝負を挑ん
でも勝てる見込みは全く
なし」。

「まあ、お客さん、お
幸せね。自分より愚かな
人に勝つよりも、賢い人
に負ける方が素敵じゃな
い。お客さんが、賢い人
になるためには時間がか
かるかもしれないけど、
すべ近くにお手本の先輩
がいることに感謝しなき
やあね。ただし、賢い人が
愚かになるのは一瞬よ。
ねえ、鈴木さん」。

「女将さん、そのとお
りです。ただし僕は、自
分を笑える人間は、他人
からは笑われないと思っ
ています。だから時々、

愚かな男を演じる時があ
るのです」。

「俳優さん、もう舞台
を降りているのだから、
演じなくていいよ」。

ただ、勢いがなければ結
婚できなかったことも事
実。先輩からの助言で、
結婚前は両目を開けてよ
く見たのです。そして、
結婚後は片目しか嫁を

「お客さん、あなたは
本当にお子ちゃまね。い
いこと、大人の男は自分
が何を話しているのかを
ちゃんと知っています。
お子ちゃまは自分の知っ
ていること、思いついた
ことを話す。上司の方が
カツラ？、別にいいじゃ
ない。こちらの由美さん
もカツラですよ」。

「それは当たり前よ。
でも、お客さんが上司か
ら叱られるのを、部下の
人たちに3回くらい見せ
てあげてご覧なさい。上
手くいけば、部下の人た
ちがやる気を出してくれ
るかも知れないわよ」。

できる小料理屋の女将さん

人生を料理する

小料理屋で、その6。
「女将さん、35歳にな
りました。そろそろ身を
固めようと思います」。
「結婚へはゆっくり歩
きなさい。そして、離婚
へは走れという言葉があ
ります。北田さん、どう
かしら」。

見ないよう努力した。し
かし、甘かった。結婚し
たら両目をつぶらないと
生活が成り立たない」。
「結婚で恋愛小説が終
わります。そして、戦国
絵巻が始まるのよ。でも
ね、夫婦間の戦いは、負
けるが勝ちですよ」。

「僕の話は参考になら
ないよ。3回の結婚は短
距離走。2回の離婚はウ
ルトラマランなもの。
小料理屋で、その7。
「女将さん、おれの上
司、カツラなんだぜ」。

「お客さん、あなたに
よんは命令や指示からは
生まれないと。任せてみ
たらいいじゃない」任
せたら期日に間に合わな
いのです。上司から叱られ
るのは僕です」。

「ありがとつごいま
す。僕は人生を前向きに
楽しむべきだと考えてい
ます。ですから、どんな
仕事でも、どんな人でも
一緒にするのが大好きで
す。魚のタラが節操がな
く、どんなエサでも食べ
てしまつことだからタラ腹
食べると使われます。し
かし、仕事ではタラ・レ
バは絶対に使いません。
僕は仕事に優先順位をつ
けられないタラちゃんと
呼ばれています」。
「だめじゃん、タラち
ゃん」。

(毎月連載)